

令和5年度 ピーマン技術情報 No.2 ～9月以降の栽培管理について～

★管理のポイント★

- ◇斑点病の防除を徹底しましょう。
ハウスでは灰色かび病、露地では斑点細菌病にも注意しましょう。
- ◇赤果発生防止のため、適期収穫に努めましょう。

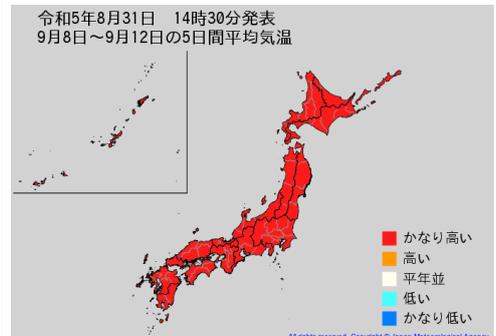
1 今後の気象について

今後、1か月は平年より気温が高くなる見込みです。

コメント: 期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

【各要素出現率】

●気温の出現率	低い	平年並	高い
9/2～9/8	10	10	80
9/9～9/15	10	10	80
9/16～9/29	10	30	60
●降水量(1ヵ月)	30	40	30
●日照時間(1ヵ月)	30	40	30



2 9月以降の栽培管理について

(1) かん水

上記の通り、気温の高い日が続くことが予想されるため、天気を考慮しながら、少量・多回数のかん水を心掛けましょう。

表1. かん水量の目安 (L/株/日)

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
露地						0.5		1.0			2.0		3.0			2.0			1.5					
ハウス	0.5			1.0			2.0			3.0			2.0			2.0			1.5					

(2) 追肥

草勢維持のため、引き続き追肥を行いましょう。

ただし、露地栽培では、9月中旬までを目安に追肥を終了します。

ハウス栽培では、気温低下とともに収穫量が減るため、追肥量も減らしていきましょう（翌年に残肥が残らないようにします）。

(2) 生理障害果の発生防止



赤果 ※発生が増えています！！

乾燥や草勢低下により、肥大に日数がかかることで発生する障害果です。

追肥や垂れ枝の整理をして草勢を維持するとともに、適期の収穫に努めましょう。

また、その他の障害果や変形果を早めに摘果し、草勢維持を図りましょう。

(3) 病害虫防除



斑点病 ※発生が見られています！！

感染後、発病するまで7日～10日ほど潜伏期間があります。

被害葉を発見したら、摘葉し、圃場から持ち出しましょう。

摘葉・防除を行い、伝染源を減らしましょう。施設栽培では、換気を行うことも効果的です。



灰色かび病

低温多湿条件下で発生しやすく、葉・茎・果実・花かすなどから発病します。

発病部位を発見したら除去し、防除を行って感染の拡大を防ぎましょう。



斑点細菌病

葉・葉柄・茎に発生して早期落葉を起こし、果実の着生・肥大を悪くします。

被害茎葉は、圃場から持ち出し、定期的に防除を行いましょう。

☆☆☆農薬は正しく使いましょう！☆☆☆

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう。

ラベル記載の「適用作物名、使用数量(希釈倍率)、使用時期、使用回数」は要チェック！

☆いわてアグリベンチャーネットもご覧ください！☆

URL : <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県内の農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など掲載中！